

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【事業完了後】							
事業名	桜の名所づくり事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-イ	
担当部課名	都市みらい部	花とみどり課	事業実施 年度	平成 24	～平成 29	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	日本一早い沖縄県の桜まつりが那覇市首里地区においても実現し、観光客の誘客・まちの活性化を図るため、桜の名所として寒川緑地に桜を植栽する。						
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		～H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	総事業費	
	A. 最終予算額	16,725	1,000	1,000	1,000	19,725	
	B. 執行額	16,725	1,000	995	529	19,249	
	うち 交付対象事業費	16,725	1,000	995	529	19,249	
	うち 交付金充当額	13,380	800	795	423	15,398	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	99.5%	52.9%	97.6%	
	執行状況の説明	予算額と執行額との差額は、工事の入札差額によるもので、計画していた事業内容は全て実施することができた。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況					
		H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	
	首里地区に桜の名所として、寒川緑地を整備する。 ・桜の植栽	目 標	120本	40本	10本	15本	14本
		実 績	120本	12本	16本	25本	14本
		目 標					
		実 績					
		目 標					
実 績							
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況					
		H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	
	桜の植栽本数	目 標	120本	40本	-	-	-
		実 績	120本	12本	-	-	-
	桜の植栽率(累計187本植栽)	目 標	-	-	75.0%	90.0%	100.0%
		実 績	-	-	84.0%	97.7%	100.0%
		目 標					
実 績							

事業完了後の取り組み

成果目標(指標)		達成／進捗状況				
		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度 目標/発現年度
事業完了後の成果目標	□ 中期にわたる事業効果 ■ 後年度に発現する事業効果					
	観光客を含む来園者へアンケートを実施し、観光地としてふさわしい景観であるか(80%以上)	目 標	-	80%	80%	80%
		実 績	-	88%		
		目 標				
実 績						
状況説明	【H30年度】 ・桜は植樹してから開花するまで一定の期間を要するため、概ね5年経過したR1年度以降に調査することとしている。 【R1年度】 ・来園者へアンケート調査を実施した結果、「観光地としてふさわしい景観である」という回答が目標値を上回った。 【R2年度】 ・					
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)		【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)				
【H30年度】 ・開花している桜はあるが、開花率は低い状況である。 ・桜は開花するまで一定の期間を要するため、植栽から概ね5年経過したR1年度以降に開花した際に来園者へのアンケートによる満足度調査を実施し、事業の検証を行う。 【R1年度】 ・桜の開花率は低い状況であるが徐々に増えてきている。 ・観賞に訪れた来園者を確認することができたが、数は少ない状況である。 【R2年度】 ・		【H30年度】 ・今後は日本一早い沖縄県の桜まつりが那覇市首里地区において実現し、訪れた観光客を含む多くの方々に桜が観賞されるよう、関係部署・団体との調整や、桜の開花時期の情報発信方法等の検討を行う必要がある。 【R1年度】 ・今後は観賞に訪れる観光客や地域の来園者を増やすため、ホームページ等を活用し、開花時期の情報発信を行う必要がある。 【R2年度】 ・				
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)						
【H30年度】 ・首里地区の寒川緑地が桜の名所となるよう、桜の植栽及び環境の整備を進めていく中で、目標達成本数に達したためH29年度に本事業は終了している。今後は、来訪者が満足できる観光地を目指し、ソフト面での「桜の名所づくり」を推進し、また他の桜の名所の候補地について、整備の必要性・可能性を検討する。なお、桜は開花するまで一定程度の期間を要するため、植栽から概ね5年が経過したR1年度以降に開花した際に来園者へのアンケートによる満足度調査を実施し、事業の検証を行う。 【R1年度】 ・アンケート調査結果を踏まえ、今後も「桜の名所づくり」を推進し、ホームページ等により周知を行うことで、観光客の誘客・まちの活性化を図る。 【R2年度】 ・						

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	那覇市営奥武山野球場イメージアップ事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－2－(1)－(イ) 「スポーツアイランド沖縄」の形成	
担当部課名	生涯学習部	市民スポーツ課	事業実施 年度	平成 28	～平成 30	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所 Ⅲ－1－(1)	
事業内容	那覇市営奥武山野球場のプロ野球キャンプ及び公式戦を継続実施し観光誘客を図るとともに、野球の全国・九州大会等の大規模大会の開催を誘致するため、大屋根鉄骨部分の錆除去・防食工事及びイメージアップ塗装工事、工事監理業務委託を行った。						
実施方法	■ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	合計	
	A. 予算現額	12,167	144,358	156,773	－	313,298	
	B. 執行済額	12,166	144,337	154,381	－	310,884	
	うち 交付金充当額	9,732	115,469	123,504	－	248,705	
	執行率(％)(B/A)	100.0%	100.0%	98.5%	#VALUE!	99.2%	
	執行状況の説明	・最終的な執行率は99.2%となり、概ね計画的に執行できた。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況					
			○年度	○年度	H28年度	H29年度	H30年度
	那覇市営奥武山野球場大屋根鉄骨部分の錆除去・防食工事及びイメージアップ塗装に係る設計業務の着手	目 標	－	－	設計業務委託の実施		
		実 績	－	－	設計業務委託の完了		
	・那覇市営奥武山野球場大屋根鉄骨部分の塩害防止対策及びイメージアップ塗装工事(第1期) ・工事監理業務委託(第1期)	目 標	－	－		整備実施	
		実 績	－	－		整備完了	
	・那覇市営奥武山野球場大屋根鉄骨部分の塩害防止対策及びイメージアップ塗装工事(第2期) ・工事監理業務委託(第2期)	目 標	－	－			整備実施
		実 績	－	－			整備完了
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況					
			○年度	○年度	H28年度	H29年度	H30年度
	那覇市営奥武山野球場大屋根鉄骨部分の錆除去・防食工事及びイメージアップ塗装に係る設計図書の完成	目 標			設計業務委託の実施		
		実 績			設計業務委託の完了		
	那覇市営奥武山野球場大屋根鉄骨部分の塩害防止対策及びイメージアップ塗装工事(第1期)と工事監理業務委託(第1期)の完成	目 標				整備実施	
		実 績				整備完了	
	那覇市営奥武山野球場大屋根鉄骨部分の塩害防止対策及びイメージアップ塗装工事(第2期)と工事監理業務委託(第2期)の完成	目 標					整備実施
		実 績					整備完了

事業完了後の取り組み

成果目標(指標)		達成／進捗状況					
			R1年度	○年度	○年度	○年度	○年度 目標/発現年度
事業完了後の成果目標	□ 中期にわたる事業効果 ■ 後年度に発現する事業効果						
	①読売巨人軍那覇キャンプ 延べ見学者数 96,200人	目 標	96,200人				
		実 績	127,188人				
	②プロ野球公式戦 1試合入場者数 13,300人	目 標	1試合 13,300人				
		実 績	2試合 34,617人				
	③全国・九州等大規模大会の開催誘致 3大会	目 標	3大会				
		実 績	3大会				
	状況説明	【R1年度】					
①読売巨人軍那覇キャンプ等の延べ見学者(観客)数は127,188人となり、目標を達成した。 本実績には、侍ジャパン強化合宿・強化試合の見学者(観客)数も含んでいる。 令和2年2月29日～3月2日に読売巨人軍3軍交流戦が行われたが、新型コロナウイルスの影響により無観客試合となったため、本実績に計上することができなかった。							
状況説明	②プロ野球公式戦は2試合行われて入場者(観客)数34,617人となり、目標を達成した。 1試合あたりの平均入場者数 17,308.5人						
	③全国・九州等大規模大会の開催数は3大会となり、目標を達成した。						

【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)	【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)
【R1年度】 ・那覇市営奥武山野球場大屋根鉄骨部分の塩害防止対策及びイメージアップ塗装工事の実施により、当該施設が活用(プロ野球キャンプ・公式戦の継続実施、大規模大会の開催)され、観客数を増加することができていることから、経済活性化の期待ができる。 【 年度】 ・	【R1年度】 ・プロ野球キャンプ及びプロ野球公式戦が継続実施されるように、また、大規模大会が開催されるように、今後も当該施設の魅力を発信し、誘致に努める必要がある。 【 年度】 ・

今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)

【R1年度】 ・那覇市営奥武山野球場の指定管理者及び市観光課等と連携し、プロ野球キャンプ及びプロ野球公式戦を継続実施し観客動員数の増加を図るとともに、全国・九州等大規模大会の開催、イベントの誘致に取り組む。
【 年度】 ・
【 年度】 ・

-

■

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	なは産業支援センター機能強化事業(駐車場整備)				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(3)-イ 情報通信関連産業の立地促進	
担当部署名	経済観光部	商工農水課	事業実施 年度	平成 28	~平成 30	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(7)
事業内容	本市の産業振興を支える企業の育成支援施設「なは産業支援センター」の機能として不足している駐車場(自走式駐車場)の機能拡充を図る。						
実施方法	■ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	合計	
	A. 予算現額	9,644	14,632			24,276	
	B. 執行済額	7,289	9,877			17,166	
	うち 交付金充当額	5,830	7,901			13,731	
	執行率(%) (B/A)	75.6%	67.5%	#DIV/0!	#DIV/0!	70.7%	
	執行状況の説明	平成29年度において実施設計を進めていくなかで、土質調査を実施する必要があることが確定したため、土質調査に係る委託料を減額補正した。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	○年度	○年度	○年度
	基礎調査及びプランニングの実施 (整備位置、施設規模など)	目 標	基礎調査およびプランニング				
		実 績	土地調査・用地測量の実施				
	実施設計	目 標		完了			
		実 績		完了			
		目 標					
		実 績					
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況					
			H28年度	H29年度	○年度	○年度	○年度
	基礎調査およびプランニングの完了	目 標	完了				
		実 績	完了				
	実施設計書の作成完了	目 標		完了			
		実 績		完了			
		目 標					
		実 績					

事業完了後の取り組み							
事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成／進捗状況				
	☐ 中期にわたる事業効果 ☒ 後年度に発現する事業効果			R元年度	令和2年度	○年度	○年度
							目標/発現年度
	駐車場が整備されたことにより利便性が確保されたか(80%)以上を含め、アンケート調査により本事業の在り方を検証する。		目 標	80%	80%		
			実 績	供用開始延期となったため未実施			
			目 標				
			実 績				
	状況説明		【H30年度】 当初、平成30年度中に供用開始だったが、令和元年11月に延期になった。 【令和元年度】 建築資材(高力ボルト)が全国的に需給逼迫のため工程を見直すことになり、工期を再延長し、令和2年3月より供用を開始した。供用開始が延期となったため、事後評価はR2年度末に実施する。				
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)				【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)			
【R元年度】 令和2年3月より供用を開始しているが、新型コロナの影響による国の緊急事態宣言による外出・イベント開催自粛によりなは産業支援センター及び周辺施設利用も激減しており、想定よりもかなり少ない利用となっている。				【R元年度】 年度中の供用期間が1か月と短いこと、コロナの影響が大きいことなどから、実際のニーズを把握することが難しいため、次年度以降に状況把握を行う。			
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)							
【R元年度】 コロナの影響によりニーズを把握することが難しいため、次年度以降に状況把握し、対応を検討する。							

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	国際通りトランジットモールビジョンづくり支援事業（H29 3-15）				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(8)-イ 商店街・中心市街地の活性化と商業の 振興	
担当部課名	経済観光部	なはまち振興課	事業実施 年度	平成 29	～平成 29	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	
事業内容	観光客の誘客及び地元客の呼び戻しを図り、中心商店街の賑わいを創出するため、今後の国際通りトランジットモールのあり方について、アンケート調査や商店街等関係者による会議等を開催、ビジョンを策定し、商店街の活性化と商業の振興を図る。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	合計	
	A. 予算現額	3,000	0	0	0	3,000	
	B. 執行済額	2,951	0	0	0	2,951	
	うち 交付金充当額	2,360				2,360	
	執行率(％)(B/A)	98.4%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	98.4%	
	執行状況の説明	国際通りトランジットモールビジョンづくり支援事業として業務委託契約し、実績払いで執行した。残額については、企画提案(プロポーザル形式)による契約金額の差額によるものである。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況					
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
	国際通りトランジットモールのビジョンづくりの 策定支援の実施	目 標	ビジョン策定 支援				
		実 績	ビジョン策定 支援				
		目 標					
		実 績					
		目 標					
		実 績					
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況					
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
	国際通りトランジットモールのビジョンづくりの 策定	目 標	ビジョン策定				
		実 績	ビジョン策定				
		目 標					
		実 績					
		目 標					
		実 績					

事業完了後の取り組み								
事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成／進捗状況					
	☐ 中期にわたる事業効果 ☒ 後年度に発現する事業効果			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度 目標/発現年度
	ビジョンに基づき、賑わい創出に向けた取り組み(オープンカフェや夜市等)の実証実験を行い、取り組みに対する満足度をアンケート調査で検証する。		目 標					満足度 80%以上
			実 績					
			目 標					
実 績								
状況説明	【H30年度】 ・那覇市国際通り商店街関係者と那覇市において、準備会議を3回開催し委員会会則について意見交換を行い、平成30年12月に那覇市国際通り魅力創出検討委員会を発足した。 【R1年度】 ・国際通りでのイベント開催にあたり、法規制や安全対策を整理しながら実証実験に向け検討を行った。 【 年度】 ・							
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)			【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)					
【H30年度】 ・那覇市国際通り魅力創出検討委員会を発足したことで、ビジョンの基づく実証実験に向けた協議や意見交換の場ができた。 【R1年度】 ・那覇市国際通り魅力創出検討委員会において、実証実験のためイベント企画を発案し、クラフトビール祭りを開催。 【 年度】 ・			【H30年度】 ・那覇市国際通り魅力創出検討委員会に学生もオブザーバー参加させることで、広く意見交換できる場とする。 【R1年度】 ・イベントの実施にあたり、法規制や安全対策上の課題が見えてきたことから、課題を整理する必要がある。 【 年度】 ・					
今後の取り組み方針 (関連・同種事業へのフィードバック等)								
【H30年度】 ・ビジョンに基づく実証実験の企画を発案するため、那覇市国際通り魅力創出検討委員会を定例で開催し協議や意見交換を行う。 【R1年度】 ・イベント実施における法規制や安全対策上の課題や留意点について、警察を含めた関係機関で協議を行い対応策の検討を進める。 【 年度】 ・								

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	商店街アーケードビジョンづくり支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(8)－(イ)		
担当部署名	経済観光部　なはまち振興課	事業実施年度	平成29 ～ 平成29 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	商店街・中心市街地の活性化と産業の振興		
					Ⅲ－1－(7)		
事業内容	誰もが安全・安心・快適に買い物や散策が楽しめる魅力ある中心商店街の商環境整備のため、老朽化したアーケードの権利関係や現地調査、関係者へのアンケート調査などを行い、商店街関係者によるアーケードビジョンづくりを支援する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		H29年度	○年度	○年度	○年度	合計	
	A. 予算現額	6,915				6,915	
	B. 執行済額	6,878				6,878	
	うち 交付金充当額	5,502				5,502	
	執行率(％)(B/A)	99.5%		#DIV/0!	#DIV/0!	99.5%	
	執行状況の説明	商店街アーケードビジョンづくり支援事業として業務委託契約し実績払いで執行した。予算残額については、先進地視察の旅費の実績による残額となっている。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況					
			H29年度	○年度	○年度	○年度	○年度
	平和通り商店街アーケードのビジョンの策定支援の実施	目 標	ビジョン策定支援実施				
		実 績	ビジョン策定支援実施				
		目 標					
		実 績					
		目 標					
		実 績					
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況					
			H29年度	○年度	○年度	○年度	○年度
	平和通り商店街アーケードのビジョンの策定(商店街組織による基本方針の決定)	目 標	ビジョン策定				
		実 績	ビジョン策定				
		目 標					
		実 績					
		目 標					
		実 績					

事業完了後の取り組み

事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成／進捗状況					
	□ 中期にわたる事業効果 ■ 後年度に発現する事業効果		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R5年度 目標/発現年度	
	平和通り商店街の老朽化したアーケードの撤去。 代替案の整備開始。		目 標					平和通り商店街の アーケードの撤去、 代替案の整備開始
			実 績					
			目 標					
			実 績					
状況説明	【H30年度】 ・アーケードビジョン策定後のアーケード撤去に向けた平和通り商店街関係者による合意形成に向けて継続協議中。 【R1年度】 ・ビジョンを具体的な計画とするため、平和通り商店街振興組合理事会、総会での検討を継続している。 【 年度】 ・							
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)			【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)					
【H30年度】 ・老朽化したアーケードの撤去に向けた平和通り商店街関係者による合意形成にあたっては、費用捻出の方法が課題となってくると思われる。 【R1年度】 ・平和通り商店街の取組を推進するため、市アーケード再整備等補助制度を創設した。 【 年度】 ・			【H30年度】 ・平和通り商店街の合意形成を後押しするため、既存の老朽化したアーケードの撤去や再整備等に対し補助制度創設の検討が必要となる。 【R1年度】 ・ビジョンの目標達成に向け関係者の合意形成を構築するため、家主・地主等のさらなる参画を計り協議を進める必要がある。 【 年度】 ・					
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)								
【H30年度】 ・平和通り商店街のアーケードビジョン策定結果に基づき、ビジョン策定後5年後を目途に商店街による既存アーケードの撤去及び代替案、若しくは補助制度を活用した再整備とするのか平和通り商店街として基本方針の決定について合意形成が進むよう支援を行ないながら、新たな補助制度の創設に向け検討していく。 【R1年度】 ・ビジョンに示す商店街の目指す姿のイメージから具体的な計画にするために、商店街関係者による協議及び合意形成を推進し、継続して助言等支援を行う。 【 年度】 ・								

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	亜熱帯庭園都市形成推進調査(道路)				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(7)-イ 歩いて暮らせる環境づくりの推進	
担当部課名	都市みらい部	都市計画課	事業実施 年度	平成 24	～平成 30	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-12
事業内容	長期未着手状態にある大中町内細部街路(19路線)について、現地調査や地域住民との懇談会を実施し、地域の歴史的な魅力を活かした安心・安全な歩行空間の確保に向けた都市計画決定の見直し方針を定める。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		～平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	合計	
	A. 予算現額	7,950	4,834	5,760	9,882	28,426	
	B. 執行済額	6,845	4,834	5,360	9,396	26,435	
	うち 交付金充当額	5,475	3,867	4,288	7,516	21,146	
	執行率(%) (B/A)	86.1%	100.0%	93.1%	95.1%	93.0%	
	執行状況の説明	長期未着手道路大中町内細部街路について、年度内で執行した。 不用額486千円については委託の入札残によるものである。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)		達成状況				
			平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
	大中町内細部街路予備設計の検討	目 標	実施	実施	実施	実施	
		実 績	実施	実施	実施	実施	
		目 標					
		実 績					
		目 標					
		実 績					
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)		進捗状況				
			平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
	大中町内細部街路について都市計画変更(案)の策定に向けた道路予備設計を実施する。 延長:約3.2km 路線数:19路線 幅員:4～9m	目 標	実施	実施	実施	実施	
		実 績	実施	実施	実施	実施	
		目 標					
		実 績					
		目 標					
		実 績					

事業完了後の取り組み								
事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成／進捗状況					
	☐ 中期にわたる事業効果 ☒ 後年度に発現する事業効果			R1年度	R2年度 目標/発現年度	○年度	○年度	○年度 目標/発現年度
	当該事業の実施後における都市計画変更に向けた手続きを進める中で、変更案に対する地域住民等の理解度(80%以上)を含め、アンケート調査により、本事業のあり方を検証する。		目 標	都市計画変更に向けた準備	80%以上			
			実 績	実施				
			目 標					
			実 績					
	状況説明	【R1年度】 都市計画変更の手続きに向けて、都市計画図書の作成や県との事前調整等を行った。 また、当初、H30年度の当該事業完了後、都市計画変更図書の準備が整い次第、都市計画変更手続を進め、併せて地域住民等へ変更案に対するアンケート調査を行うとしていた。しかし、地域住民等から、当該事業の中で作成した変更案に対する新たな要望等があり、整理する必要性が生じたため、R1年度は当該整理を行い、R2年度に当該アンケートを行うこととした。						
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)				【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)				
・大中町内細部街路は、複数の路線からなり一定の延長があることから数多くの地域住民が関係権利者となり、また、それらの地域住民に対して長期間に渡り都市計画法による土地利用の制限をかけている。				・都市計画の見直しにあたっては、地域住民とのさらなる合意形成を丁寧に進める必要がある。				
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)								
・都市計画決定変更に向けた手続きを進める際には、地域住民とさらなる合意形成を図るために、大中町内細部街路沿線全体を対象とした説明会を開催し、地域住民の理解度をより高められるよう進めていく。								

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	牧志公設市場(衣料部・雑貨部)活性化基礎調査				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(8)－イ 商店街・中心市街地の活性化と商業の振興	
担当部課名	経済観光部	なはまち振興課	事業実施 年度	平成 28	～平成 29	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	
事業内容	牧志公設市場(衣料部・雑貨部)の活性化を図ることを目的とし、施設利用状況等の把握、利用者実態調査等を踏まえ、今後の課題及び方向性を検討するための基礎調査を実施する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		28年度	29年度	30年度	元年度	合計	
	A. 予算現額	4,860				4,860	
	B. 執行済額	4,617				4,617	
	うち 交付金充当額	3,693				3,693	
	執行率(%) (B/A)	95.0%				95.0%	
	執行状況の説明	・市場使用者の事業実態等に係る意見の取りまとめなどに不測の日数を要したため、平成29年度へ事業を繰越した。 ・最終的な執行率は95%となり、概ね計画的に執行できた。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	〇年度
	・施設利用状況調査の実施	目 標	基礎調査の実施				
		実 績	基礎調査の実施				
	・利用者実態調査の実施	目 標	基礎調査の実施				
		実 績	基礎調査の実施				
		目 標					
		実 績					
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)		進捗状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	〇年度
	調査報告書の完成	目 標	報告書の作成				
		実 績	報告書の完成				
		目 標					
		実 績					

事業完了後の取り組み

事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成／進捗状況				
	□ 中期にわたる事業効果 ■ 後年度に発現する事業効果		30年度	元年度	2年度	〇年度	3年度 目標/発現年度
	基礎調査及び本市のファシリティマネジメント推進方針等に基づき、牧志公設市場(衣料部・雑貨部)の今後の方向性を定める。 【R3成果目標】 通行量(牧志公設市場衣料部前)6,000人		目 標	今後の方向性の検討	今後の方向性の決定	今後の方向性の決定	通行量(牧志公設市場衣料部前)6,000人
			実 績	今後の方向性の検討	今後の方向性の検討		
			目 標				
			実 績				
状況説明	【30年度】 ・牧志公設市場(衣料部・雑貨部)の今後の方向性を定めるため、「牧志公設市場(衣料部・雑貨部)のあり方検討事業」を実施した。 【元年度】 ・平成30年度に引き続き、意見交換会、市民ワークショップを開催し、市場使用者、市場周辺事業者、土地所有者等関係者より意見聴取を実施。 ・那覇市中心市街地活性化委員会に諮問し、衣料部・雑貨部の今後の方向性策定にあたり審議を重ね答申を得た。 ・令和2年2月、衣料部・雑貨部の今後の方向性を確定する上で基本的な考え方を決定した。						
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)			【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)				
【30年度】 ・市場使用者、市場周辺事業者及び市民等から丁寧に意見を聴取する必要があり、その期間を十分に確保するため、令和元年度へ事業を繰越した。 【元年度】 ・公設市場としての機能の廃止による市場使用者への支援や、市場以外の機能(トイレ、会議室等)について継続検討等の課題がある。			【30年度】 ・市場使用者からの意見聴取にあたり、意見交換会では意見の集約が困難である。別の手法を検討する必要がある。 【元年度】 ・市場使用者への移転補償及び商業支援の実施の検討、建物の有償譲渡に向けた作業準備、市場以外の機能継続及び市場施設の継続利用について、土地所有者の意向を踏まえた検討が必要である。				
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)							
【30年度】 ・市場使用者の意見集約にあたっては、市場使用者へ個別ヒアリングを実施した上で意見の取りまとめを行った。 【元年度】 ・公設市場の円滑な終了に向けて、関係者の要望にも留意しながら意見の集約を図り、市の基本的考えに基づいた解決方法を示す。							

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【事業完了後】							
事業名	冷凍冷蔵コンテナ用電源整備事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(4)－ア 臨港・臨空型産業の集積による国際物流拠点の形成		
担当部課名	都市みらい部 都市計画課	事業実施 年度	平成28年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－1－(3)		
事業内容	新港ふ頭の国際コンテナターミナルには、冷凍食品等低温輸送用コンテナのため既存のリーファー電源が設置されているが、年々増大している冷凍冷蔵コンテナ需要に対応するため、さらなる増設を行い、那覇港における取扱貨物量の増加を図る。 【施設概要】 リーファー電源 440V (2段×10口、1段×2口、計22口)						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		H28年度	○年度	○年度	○年度	総事業費	
	A. 最終予算額	19,819				19,819	
	B. 執行額	16,778				16,778	
	うち 交付対象事業費	16,778				16,778	
	うち 交付金充当額	13,422				13,422	
	執行率(%) (B/A)	84.7%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	84.7%	
	執行状況の説明	・リーファー電源の設置箇所の選定に伴う調整に不測の時間を要したことから、19,819千円をH29年度に繰越した。 ・当初は、既存の電気室を増築し、リーファー電源の増設を行う予定であったが、既存の電気室の容量が22口分の増設まで対応可能であり、電気室の設計が不用となったため、予算に一部不用が生じた。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)		達成状況				
				H28年度	○年度	○年度	○年度
	リーファー電源及び電気室の実施設計の実施	目 標	実施設計の実施				
		実 績	実施設計の実施				
	リーファー電源10口設置工事の実施	目 標	10口				
		実 績	22口				
		目 標					
		実 績					
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)		進捗状況				
				H28年度	○年度	○年度	○年度
	リーファー電源及び電気室の実施設計完了	目 標	実施設計完了				
		実 績	実施設計完了				
	リーファー電源10口設置完了	目 標	10口設置完了				
		実 績	22口設置完了				
		目 標					
		実 績					

事業完了後の取り組み

成果目標(指標)		達成／進捗状況				
		H29年度	H30年度	R1年度	○年度	R3年度 目標/発現年度
事業完了後の 成果目標	□ 中期にわたる事業効果 ■ 後年度に発現する事業効果					
	那覇港のリーファーコンテナの取扱貨物量の増加	目 標				76万トン
		実 績	70万トン	71万トン	75万トン	
		目 標				
		実 績				
	状況説明	【H29年度】 ・那覇港におけるリーファーコンテナの取扱貨物量は増加している。				
【H30年度】 ・那覇港におけるリーファーコンテナの取扱貨物量は増加している。						
【R1年度】 ・那覇港におけるリーファーコンテナの取扱貨物量は増加している。						

【完了後】事業効果等の確認 （施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等）	【完了後】改善措置等の検討 （事業効果の更なる向上等）
【H29年度】 ・那覇港におけるリーファーコンテナの取扱貨物量は、順調に推移している。 ・好調な沖縄経済を反映し、「製造食品」等の取扱貨物量が増加していることが一つの要因と考えられる。	【H29年度】 ・那覇港総合物流センターの整備を進め、取扱貨物量の増加を図る。
【H30年度】 ・那覇港におけるリーファーコンテナの取扱貨物量は増加している。 ・新港ふ頭地区に那覇港総合物流センターが次年度開業することに伴い、取扱貨物量は今後さらに増加していくものと見られる。	【H30年度】 ・那覇港総合物流センターを活用した集貨・創貨の取組促進のため、運営事業者による施設の運用状況を定期的にモニタリングしていく必要がある。
【R1年度】 ・那覇港におけるリーファーコンテナの取扱貨物量は増加している。 ・新港ふ頭地区に那覇港総合物流センターが開業した事などが増加の要因と考えられる。	【R1年度】 ・那覇港総合物流センターを活用した集貨・創貨の取組促進のため、運営事業者による施設の運用状況を定期的にモニタリングしていく必要がある。

今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)

【H29年度】 ・引き続き那覇港総合物流センターの整備をすすめ、集貨・創貨による取扱貨物量の増加を図る。 【H30年度】 ・那覇港総合物流センターの開業後は、月に1度モニタリング会議により事業者の集貨・創貨計画の取組状況を確認し、必要に応じて指導・勧告を行う。 【R1年度】 ・今後も月に1度のモニタリング会議を継続し、事業者の集貨・創貨計画の取組状況を確認するとともに、必要に応じて指導・勧告を行う。
--

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【事業完了後】							
事業名	那覇港(泊ふ頭)陸上電力供給施設整備事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(1)-(イ) 人流・物流を支える港湾の整備		
担当部課名	都市みらい部 都市計画課	事業実施 年度	平成28年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(3)		
事業内容	離島航路の維持・改善及び離島振興に向けて、排出ガス削減、騒音抑制など良好な港湾環境の改善を図るため、泊ふ頭に陸上電力供給施設を整備した。 【施設概要】高圧受変電設備:3箇所(電源供給対象船舶)フェリーとかしき、フェリーざまみ、栗国フェリー 電圧:6600V 全出力:350kW 屋外型						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		28年度	○年度	○年度	○年度	総事業費	
	A. 最終予算額	13,026				13,026	
	B. 執行額	12,668				12,668	
	うち 交付対象事業費	12,668				12,668	
	うち 交付金充当額	10,133				10,133	
	執行率(%) (B/A)	97.3%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	97.3%	
	執行状況の説明	当該施設を利用する各船社との協議を踏まえ、受電設備の仕様を見直したことにより、不測の日数を要した。また、当該施設の配置検討において関係者との調整に不測の日数を要したことから、12,264千円をH29年度に繰り越した。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況					
			28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	那覇港(泊ふ頭)陸上電力供給施設の実施設 計並びに整備工事の実施	目 標	実施				
		実 績	実施				
		目 標					
		実 績					
		目 標					
実 績							
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況					
			28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	陸上電力供給施設整備 3基	目 標	実施				
		実 績	実施				
		目 標					
		実 績					
		目 標					
実 績							

事業完了後の取り組み

事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成／進捗状況				
	□ 中期にわたる事業効果 ■ 後年度に発現する事業効果		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度 目標/発現年度
	観光客を受け入れる港として快適な環境が確保されていると感じるか(80%以上)を含め、船舶運航事業者へのアンケートを行い、本事業のあり方を検証する。	目 標	—	—	—		アンケート結果「快適な環境が確保されている」(80%以上)
		実 績	未実施	未実施	未実施		
		目 標					
		実 績					
状況説明	【H29年度】 ・アンケートの内容及び実施方法について検討中。 【H30年度】 ・アンケートの内容及び実施方法について検討中。 【R1年度】 ・アンケートの内容及び実施方法について検討中。						

【完了後】事業効果等の確認
(施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)

【完了後】改善措置等の検討
(事業効果の更なる向上等)

【H29年度】

- ・対象船舶を利用する乗降客は増加傾向にある。

当該施設の設置にあたっては、事前に関係者とその仕様、及び設置場所について協議を行っていることから、快適な環境づくりに寄与しているものと考えられる。

【H30年度】

- ・対象船舶を利用する乗降客は引き続き増加傾向にある。

当該施設の設置にあたっては事前に関係者とその仕様、及び設置場所について協議を行っていることから、快適な環境づくりに寄与しているものと考えられる。

【R1年度】

- ・対象船舶を利用する乗降客は増加傾向にある。

当該施設の設置にあたっては事前に関係者とその仕様、及び設置場所について協議を行っていることから、快適な環境づくりに寄与しているものと考えられる。

【H29年度】

- ・観光客を受け入れる港として快適な環境づくりを実現するためには、本事業に加えて、屋根付き歩道の整備や、多言語標識の整備等により観光客の更なる満足度向上を図る必要があることから、アンケートの内容、実施時期について今後検討を行う必要がある。

【H30年度】

- ・泊ふ頭を利用する観光客の満足度向上に向けて、次年度以降、屋根付き歩道や多言語標識の整備を行うための事前準備を進めるとともに、アンケートの内容、実施時期について検討を行う。

【R1年度】

- ・泊ふ頭において引き続き屋根付き歩道や多言語標識の整備を進めるとともに、令和2年度中のアンケート実施に向けて関係者と調整を行う。

今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)

【H29年度】
・船舶運航事業者へ向けて実施するアンケートの内容及び実施方法について検討を行う。

【H30年度】
・屋根付き歩道の整備や多言語標識の整備に向けた準備を進め、泊ふ頭地区における観光客の更なる満足度向上を図る。

【R1年度】
・令和2年度中のアンケート実施に向けて、関係者との調整を実施する。

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	亜熱帯庭園都市の道づくり基礎調査事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ 観光客の受入体制の整備	
担当部課名	都市みらい部	道路建設課	事業実施 年度	平成 27	～平成 30年度	沖縄振興基本方針 該当箇所 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	観光都市にふさわしい観光サービスの環境改善に向け、「人にやさしい道づくり」や「誰もが移動しやすい観光サービス道路の整備等」につなげていくための基礎調査を行う。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		H27年度	H28年度	H30年度	○年度	合計	
	A. 最終予算現額	4,000	7,000	7,000		18,000	
	B. 執行済額	3,899	6,588	6,977		17,464	
	うち 交付金充当額	3,119	5,270	5,581		13,970	
	執行率(%) (B/A)	97.5%	94.1%	99.7%	#DIV/0!	97.0%	
	執行状況の説明	・最終的な執行率は97.0%となり、概ね計画通りに執行できた。残額は入札差額である。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況					
			H27年度	H28年度	H30年度	○年度	○年度
	現況路線の調査・評価を行い、道路環境改善のための整備基本方針を設定する。(H27:那覇・真和志地域、H28:首里・小禄地域、H30:那覇西・北地域)	目 標	2地域	2地域	2地域		
		実 績	2地域	2地域	2地域		
		目 標					
		実 績					
		目 標					
		実 績					
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況					
			H27年度	H28年度	H30年度	○年度	○年度
	各地域における道づくり基礎調査の完了 (H27:那覇・真和志地域、H28:首里・小禄地域、H30:那覇西・北地域)	目 標	2地域	2地域	2地域		
		実 績	2地域	2地域	2地域		
		目 標					
		実 績					
		目 標					
		実 績					

事業完了後の取り組み								
事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成／進捗状況					
	☐ 中期にわたる事業効果 ☒ 後年度に発現する事業効果			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度 目標/発現年度
	供用開始後1年目(令和4年度)の目標を以下のとおりとする。本事業による整備した道路について、観光客へのアンケート調査等を実施し、安全・快適に移動できるか(80%以上)を含め、アンケート調査により、本事業のあり方を検証する。		目 標				80%以上	80%以上
			実 績					
			目 標					
			実 績					
	状 況 説 明	【R1年】 ・整備基本方針を策定し、その方針に基づき、選定された路線について整備の優先順位を決定した。						
		【 年度】 ・						
		【 年度】 ・						
	【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)			【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)				
【R1年度】 ・令和4年度の供用開始に向けて、道路整備の事業化に向けて検討を行う。			【R1年度】 ・基本方針に基づき、路線ごとに適切な補助メニューの活用等を検討し、路線整備の事業促進を図る。					
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)								
【R2年度以降】 ・優先順位の高い路線の整備に向けて、各関係部署・機関と調整を行い、円滑な設計・整備工事に努める。								

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	観光危機管理推進事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ 観光客の受入体制の整備	
担当部課名	経済観光部	観光課	事業実施 年度	平成30年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(1)	
事業内容	観光危機の発生により、観光産業に打撃を受ける状況の発生を想定し、被害をより最小限化し、観光客に安全・安心・快適な観光地を提供できる体制の構築を図る。また関係者等へのヒアリングにより、それぞれが保有する観光危機管理に必要な情報を市が一元的に把握することなどを目的として、「那覇市観光危機管理計画」の策定を目指す。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()						
事業期間中 の予算額・ 執行額 【単位:千円】		H30年度	○年度	○年度	○年度	合計	
	A. 予算現額	6,500				6,500	
	B. 執行済額	6,175				6,175	
	うち 交付金充当額	4,940				4,940	
	執行率(%) (B/A)	95.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	95.0%	
	執行状況の説明	事業の執行にあたっては、事業の主たる目的を達成するため、業務内容を十分に理解した体制の構築、取組の想定、専門性と実績等を有する事業者を選定するため、公募型プロポーザル方式を採用し琉球国際航業に決定をした。3月29日付で業務完了報告があり、検査した結果、滞りなく遂行され、完了したことを確認した。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	○年度	○年度	○年度	○年度
	・既存計画と連携・連動しながら、本市の特性(空港・港の存在、ホテル集積、二次交通拠点、密集する商店街等)に即した実態調査、課題整理、危機管理体制の構築を行う。	目 標	危機管理体制の構築				
		実 績	危機管理体制の構築				
		目 標					
		実 績					
		目 標					
		実 績					
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)		進捗状況				
			H30年度	○年度	○年度	○年度	○年度
	那覇市観光危機管理計画の策定完了	目 標	観光危機管理計画の策定				
		実 績	観光危機管理計画の策定				
		目 標					
		実 績					
		目 標					
		実 績					

事業完了後の取り組み								
事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成／進捗状況					
	☐ 中期にわたる事業効果 ☒ 後年度に発現する事業効果			R1年度	○年度	○年度	○年度	○年度 目標/発現年度
	策定した観光危機管理計画を活用した危機管理体制の運用訓練(1回以上/年)を実施することにより、本事業のあり方を検証する。		目 標	運用訓練(1回以上/年)				
			実 績	2回実施				
			目 標					
実 績								
状況説明	【R1年度】 ・R1年7月16日実施の「平成31年度観光危機管理体制運用図上訓練」(主催:沖縄県及び沖縄観光コンベンションビューロー)、R2年1月15日実施の「令和元年度那覇市総合防災訓練」(主催:那覇市)において観光危機管理計画を活用した訓練を実施。 【 年度】 ・ 【 年度】 ・							
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)			【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)					
【R1年度】 ・観光危機管理計画における初動・応急対応等の事例や留意事項を参考にすることで、より実態に近い訓練効果を得ることが出来た。 【 年度】 ・ 【 年度】 ・			【R1年度】 ・観光関連団体等の有事の際の連絡体制や対応状況などが把握出来ていれば、より有効な活用が出来るものと思われる。 【 年度】 ・ 【 年度】 ・					
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)								
【R1年度】 ・観光関連団体等と連携を図りながら、より効果的な運用に努める。 【 年度】 ・ 【 年度】 ・								

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	景観まちづくり推進事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－1－(6)－ア 沖縄らしい風景づくり	
担当部課名	都市みらい部	都市計画課	事業実施 年度	平成 24	～平成 33	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	魅力ある那覇らしいまちづくりの推進に向けて、「亜熱帯庭園都市」那覇の個性を活かした美しい景観まちづくりと、地域(観光)資源である那覇らしい風景の保全、再生、創出を図り、景観形成を促進するため、土木構造物や公共建築物、公共サインにおけるデザインの発想と創意工夫の手助けとなる公共デザインマニュアルを作成し、地域の個性・特性を活かした那覇らしいまちづくりを推進する。						
実施方法	■ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		～27年度	28年度	29年度	30年度	合計	
	A. 予算現額	89,488	8,640	0	7,678	105,806	
	B. 執行済額	85,893	8,543	0	7,236	101,672	
	うち 交付金充当額	68,712	6,834	0	5,788	81,334	
	執行率(%) (B/A)	96.0%	98.9%	0.0%	94.2%	96.1%	
	執行状況の説明	・最終的な執行率は96.5%となり、概ね計画的に執行できた。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	30年度
	建築物及び工作物、屋外広告物のデザイン マニュアルの検討等	目 標	各種計画(案)の作成及び説明板の設置	活用計画案及び協定基準案の作成	屋外広告物の基礎調査及び実態調査の実施	建築物及び工作物、屋外広告物のデザインマニュアルの検討	
		実 績	各種計画(案)の作成及び説明板の設置	活用計画案及び協定基準案の作成	屋外広告物の基礎調査及び実態調査の実施	建築物及び工作物、屋外広告物のデザインマニュアルの検討を実施	
	公共デザインマニュアル案の検討	目 標					公共デザインマニュアル案の検討
		実 績					公共デザインマニュアル案の検討を実施
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)		進捗状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	30年度
	土木構造物や公共施設、公共サインにおける デザインの発想と創意工夫の手助けとなる公 共マニュアル案の作成等	目 標	各種計画(案)の作成及び説明板の設置	活用計画案及び協定基準案の作成	屋外広告物誘導案及び規制誘導手法案の作成	魅力的な街なみへの誘導及び創出を図るためのデザインマニュアルの作成	
		実 績	各種計画(案)の作成及び説明板の設置	活用計画案及び協定基準案の作成	屋外広告物誘導案及び規制誘導手法案の作成	魅力的な街なみへの誘導及び創出を図るためのデザインマニュアルの作成完了	
	公共デザインマニュアル案の作成完了	目 標					那覇らしい都市景観向上を図るためのデザインマニュアル案の作成
		実 績					那覇らしい都市景観の向上を図るためのデザインマニュアル案の作成完了
	目 標						
	実 績						

事業完了後の取り組み								
事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成／進捗状況					
	☐ 中期にわたる事業効果 ☒ 後年度に発現する事業効果			R1年度	R2年度	R3年度 目標/発現年度		
	公共デザインマニュアルを活用し整備した施設周辺において、観光客へのアンケート調査等を実施し、観光地の景観としてふさわしいデザインであると感じるか(80%以上)を含めアンケート調査を行う。		目 標	公共デザインマニュアルの合意形成	公共デザインマニュアル活用による設計調整開始	80%以上		
			実 績	HPへの掲載及び関係機関へ合意形成を図った上、マニュアル配布を実施				
			目 標					
			実 績					
	状況説明	【R1年度】 ・公共デザインマニュアルの市ホームページへの掲載、庁内関係部署及び関係機関等への配布を行い周知を図った。 【 年度】 ・ 【 年度】 ・						
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)				【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)				
【R1年度】 ・次年度より公共デザインマニュアルを活用した土木構造物や公共施設、公共サイン等の設計調整及び相談が増えることが見込まれる。 【 年度】 ・ 【 年度】 ・				【R1年度】 ・公共デザインマニュアルの活用促進を図るため、効果的な情報発信に努める。 【 年度】 ・ 【 年度】 ・				
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)								
【R1年度】 ・HP掲載を継続し公共マニュアルの周知を図り、土木構造物や公共施設、公共サイン等の設計調整及び相談時には、当該マニュアルを提示し調整を行う。 【 年度】 ・ 【 年度】 ・								

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	まちなか商店街再生プロジェクト推進事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(8)－(イ)		
担当部課名	経済観光部　なはまち振興課	事業実施 年度	平成 29	～	平成 30	年度	
				沖縄振興基本方針 該当箇所	商店街・中心市街地の活性化と 産業の振興		
					Ⅲ－1－(7)		
事業内容	中心商店街への観光客の誘客及び地元客の呼び戻しを図るため、平成29年度まちなか商店街再生プロジェクト推進事業で提案されたオープンカフェや継続したマーケット事業、物販等、賑わいを創出するための事業を可能にするため、法令要件の整理、関係機関との調整を行いまちなか商店街再生計画案を作成する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他(　)						
事業期間中 の予算額・ 執行額 【単位:千円】		H29年度	H30年度	○年度	○年度	合計	
	A. 予算現額	4,800	3,000			7,800	
	B. 執行済額	4,790	2,970			7,760	
	うち 交付金充当額	3,821	2,376			6,197	
	執行率(％)(B/A)	99.8%	99.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	99.5%	
	執行状況の説明	まちなか商店街再生プロジェクト推進事業として業務委託契約し実績払いで執行した。残額については、企画提案にかかる差額によるものである。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況					
			H29年度	H30年度	○年度	○年度	○年度
	関係者(道路管理者、警察等)調整及び会議開催(庁内、商店街等)	目 標		関係者調整・ 会議の開催			
		実 績		関係者調整・ 会議の開催			
	法令要件の整理	目 標		法令要件の 整理			
		実 績		法令要件の 整理			
	まちなか商店街再生プロジェクト案の提案	目 標	プロジェクト の提案				
		実 績	プロジェクト の提案				
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況					
			H29年度	H30年度	○年度	○年度	○年度
	再生計画案の作成完了	目 標		再生計画案 の作成			
		実 績		再生計画案 の作成			
	中心商店街における現状・課題の整理	目 標	課題整理				
		実 績	課題整理				
	提案をうけたプロジェクトの実証実験	目 標	実証実験				
		実 績	実証実験				

事業完了後の取り組み								
事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成／進捗状況					
	☐ 中期にわたる事業効果 ☒ 後年度に発現する事業効果			R1年度	○年度	○年度	○年度	R2年度 目標/発現年度
	再生計画案の作成完了	目 標	再生計画案の作成					
		実 績	再生計画案の作成					
	中心商店街通行量	目 標						140,000人
実 績								
状況説明	【R1年度】 ・都市再生整備計画(ソフト事業)の策定に向けて、道路管理者および公安委員会の認定・同意を得る手続きを開始した。 ・商店街振興組合で構成する事業の運営組織の体制づくりに向け、協議を行った。 【 年度】 【 年度】 ・							
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)			【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)					
【R1年度】 ・都市再生整備計画の策定に向け道路管理者および公安委員会の認定・同意を得る手続き及び事業の運営組織の体制づくりに向け協議を開始したが、新型コロナウイルスの影響により、調整が一時中断している。 【 年度】 【 年度】 ・			【R1年度】 ・都市再生整備計画の先進都市事例を収集及び提供し、公安委員会の認定・同意を得る手続きをスムーズに進める。 【 年度】 【 年度】 ・					
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)								
【R1年度】 ・都市再生整備計画が商店街の賑わい創出に繋がるツールであることを前面に打ち出しながら、商店街振興組合が主体となった事業運営組織の体制づくりを推進し支援していく。 【年度】 【 年度】 ・								

市町村名	那覇市							
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】								
事業名	那覇市ぶんかテンパス館施設機能強化事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ウ 文化活動を支える基盤の形成		
担当部課名	経済観光部	商工農水課	事業実施 年度	平成 30	～平成 30	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(7)	
事業内容	利用者のため空調設備機器を整備することにより、利用者の利便性の確保を図る。							
実施方法	■ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他()							
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		平成30年度	○年度	○年度	○年度	合計		
	A. 予算現額	57,652				57,652		
	B. 執行済額	52,637				52,637		
	うち 交付金充当額	42,109				42,109		
	執行率(%) (B/A)	91.3%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	91.3%		
	執行状況の説明	不用額については、実施設計業務委託、工事監理業務委託、工事請負契約の一般競争入札による契約残等によるものである。						
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)		達成状況					
				H30年度	○年度	○年度	○年度	○年度
	空調設備工事 ①実施設計 ②工事実施 ③工事監理		目 標	設計、施工、 監理				
			実 績	設計、施工、 監理				
			目 標					
			実 績					
			目 標					
			実 績					
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)		進捗状況					
				H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	高効率型空調設備機器への更新工事完了		目 標	工事完了	-	-	-	-
			実 績	工事完了	-	-	-	-
			目 標					
			実 績					
			目 標					
			実 績					

事業完了後の取り組み								
事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成／進捗状況					
	☐ 中期にわたる事業効果 ☒ 後年度に発現する事業効果			R1年度	○年度	○年度	○年度	○年度 目標/発現年度
	利用者へ空調設備に関するアンケートを実施し、快適性についてのアンケート(80%以上)		目 標	80.0%				
			実 績	94.4%				
			目 標					
			実 績					
状況説明	【R1年度】 ・施設利用者に対しアンケート調査を実施し、回答者650人中614名が「非常に快適」、「快適」の回答 【 年度】 ・ 【 年度】 ・							
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)			【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)					
【R1年度】 ・施設利用者へのアンケートで回答者の90%以上が快適であると回答したほか、工事前にあった空調に対するクレームが無くなった。 【 年度】 ・ 【 年度】 ・			【R1年度】 ・施設機能は向上しているので、指定管理者と連携し施設利用者を増やす取り組みを行う。 【 年度】 ・ 【 年度】 ・					
今後の取り組み方針 (関連・同種事業へのフィードバック等)								
【R1年度】 ・芸能公演の入館者数を増やすため、指定管理者が回数券を発行。 【 年度】 ・ 【 年度】 ・								

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	那覇港総合物流センター整備事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(4)－ア 臨空・臨港型産業の集積による国際物流拠点の形成		
担当部課名	都市みらい部 都市計画課	事業実施 年度	平成 25	～平成 30	年度	沖縄振興基本方針 該当箇所 Ⅲ-1-(3)	
事業内容	本県の生活・産業物資の輸送の大部分を担う港湾物流機能を改善し、従来型物流の高度化を図り、さらに付加価値型ものづくり産業の集積などの国際物流拠点の形成を図るため、物流棟本体及び電気工事、機械工事、地盤改良工事を行う。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		～H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	合計	
	A. 予算現額	502,830	653,547	1,062,500	591,046	2,809,923	
	B. 執行済額	502,747	653,547	1,062,500	588,744	2,807,538	
	うち 交付金充当額	402,197	522,837	850,000	470,995	2,246,029	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	99.6%	99.9%	
	執行状況の説明	・総合物流センター建設地の地中に多数の岩塊が確認されたことや、地盤改良工法変更など、これらに伴う設計変更により繰越が生じた。 ・最終的な執行率は99.9%となり、概ね計画的に執行できた。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況					
			～H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	総合物流センター建設工事の実施	目 標	実施設計の実施	基礎工事の着手	基礎工事、躯体工事の実施	躯体工事、設備工事の実施	設備工事、外装工事の実施
		実 績	実施設計の実施	基礎工事の着手	基礎工事、躯体工事の実施	躯体工事、設備工事の実施	設備工事、外装工事の実施
		目 標					
		実 績					
		目 標					
		実 績					
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況					
			～H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	那覇港総合物流センターの整備完了	目 標	実施設計の完了	ランプウェイ基礎工の完了	物流センター基礎工、ランプウェイ躯体工の完了	物流棟主要構造部完成、受電設備の設置	工事完了
		実 績	実施設計の完了	ランプウェイ基礎工の完了	物流センター基礎工、ランプウェイ躯体工の完了	物流棟主要構造部完成、受電設備の設置	工事完了
		目 標					
		実 績					
		目 標					
		実 績					

事業完了後の取り組み								
事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成／進捗状況					
	■ 中期にわたる事業効果 □ 後年度に発現する事業効果			○年度	○年度	R1年度	R2年度	R3年度 目標/発現年度
	那覇港総合物流センターの取扱貨物量		目 標			4,580TEU	-	-
			実 績			5,550TEU		
			目 標					
			実 績					
	状況説明	【令和元年度】 ・那覇港総合物流センターの取扱貨物量は5,550TEUとなり、目標値を達成した。						
		【 年度】 ・ 【 年度】 ・						
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)				【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)				
【令和元年度】 ・那覇港総合物流センターを活用した集貨・創貨の取組により、初年度の目標値は達成された。				【令和元年度】 ・那覇港管理組合と那覇港総合物流センター運営企業間で開催する月次会議により、今後も適切な管理運営を行っていく必要がある。				
【 年度】 ・				【 年度】 ・				
【 年度】 ・				【 年度】 ・				
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)								
【令和元年度】 ・那覇港管理組合と那覇港総合物流センター運営企業間で取扱貨物量の増加及び物流高度化に対する課題を共有し、適正な管理運営を継続することで、取扱貨物の維持・増加に努める。								
【 年度】 ・								
【 年度】 ・								

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	電子黒板整備事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－5－(4)－ア 確かな学力を身につける教育の推進	
担当部課名	学校教育部	教育研究所	事業実施 年度	平成 29	～平成 30	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－3－(1)
事業内容	将来の沖縄振興に資する人材の健全育成と教育の振興・学力向上のため、小学校に電子黒板を整備、同時に貸出用タブレット端末を整備し、児童の興味関心及び集中力を高め、分かりやすい授業環境を整える。						
実施方法	■ 直接実施 □ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		H29年度	H30年度	○年度	○年度	合計	
	A. 予算現額	45,900	140,271			186,171	
	B. 執行済額	45,900	140,271			186,171	
	うち 交付金充当額	36,720	112,216			148,936	
	執行率(％)(B/A)	100.0%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	100.0%	
	執行状況の説明	計画どおりにH29年度は市内小学校第5学年の全普通教室(整備済みの学級を除く)に電子黒板(95台)を整備。平成30年度は小学校第1～4学年の全普通教室(整備済みの学級を除く)及び第6学年の学級増の普通教室に電子黒板(437台)を整備し、また貸出用タブレット端末(60台)を教育研究所に整備した。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況					
			H29年度	H30年度	○年度	○年度	○年度
	・電子黒板の整備(H29年度) 市内小学校第5学年普通教室 95台	目 標	95台	—			
		実 績	95台	—			
	・電子黒板の整備(H30年度) 市内小学校第1～4学年の全普通教室(整備済みの教室を除く)及び第6学年の学級増の普通教室(437台) 貸出用タブレット端末の整備(60台)	目 標	—	437台 60台			
		実 績	—	437台 60台			
		目 標					
		実 績					
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況					
			H29年度	H30年度	○年度	○年度	○年度
	市内小学校第5学年普通教室の電子黒板整備率100%とする。	目 標	100%	—			
		実 績	100%	—			
	・電子黒板の整備 小学校第1～4学年の全普通教室(整備済みの教室を除く)及び6学年の学級増の普通教室への電子黒板整備率 100% ・教育研究所への貸出用タブレット端末60台の整備完了	目 標	—	100%			
		実 績	—	100%			
		目 標					
		実 績					

事業完了後の取り組み

事業完了後の成果目標	成果目標（指標）		達成／進捗状況					
	□ 中期にわたる事業効果 ■ 後年度に発現する事業効果			H30年度	R1年度	○年度	○年度	○年度 目標/発現年度
	【R1成果目標】 児童へのアンケートで、「授業がわかりやすくなったと回答する割合」が80％以上、また、教師へのアンケートで、「効果的・効率的な板書や資料提示ができた」と回答する割合」が80％以上を目指す。また、アンケート調査により本事業のあり方を検証する。		目 標	80％以上	80％以上			
			実 績	※H29成果 88％（児童） 71％（教師）	※H30成果 90.2％（児童） 77.9％（教師）			
			目 標					
		実 績						
状況説明		【H30年度】 ・H29年度に設置した電子黒板（小学校第5学年の全普通教室）に対するアンケートを実施。その結果、第5学年の児童の88％が、授業が分かりやすくなった、見やすくなったと回答。また、第5学年の教師の71％が電子黒板の使用により効果的・効率的な板書や資料提示ができた」と回答。 【R1年度】 ・H30年度に電子黒板を設置した学年を含む、全児童生徒を対象にアンケートを実施。その結果、第1～4学年については、90.2％（全体89.5％）が、授業が分かりやすくなった、見やすくなったと回答。また、第1～4学年の教師の77.9％（全体76.4％）が電子黒板の使用により効果的・効率的な板書や資料提示ができた」と回答。 【 年度】 ・						
【完了後】事業効果等の確認 （施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等）			【完了後】改善措置等の検討 （事業効果の更なる向上等）					
【H30年度】 ・児童の80％以上が授業で電子黒板の活用することにより、分かりやすい授業になったと回答しており、導入による効果の高さが伺える。 ・電子黒板を効果的・効率的に活用できた」と回答した教員の割合が70％程度であり、まだ十分な水準に達していない。 【R1年度】 第1～4学年の児童の90.2％が、電子黒板の活用による授業は、分かりやすいと回答しており、また、85.2％の児童が、今後も電子黒板を活用した学習を行いたいとの回答があったことから、導入により学習意欲の向上が見られる。 【 年度】 ・			【H30年度】 ・児童が興味を引き学習意欲を高めつづけられるよう、電子黒板を活用した魅力的な授業形態を研究していく必要がある。 ・電子黒板を含むICT機器の活用について、教員のスキルアップが必要である。 【R1年度】 ・教員の電子黒板の使い道（iPad等との連携など）を増やすためにも、ICT機器の活用スキルアップ研修を継続していく必要がある。 ・教員だけではなく、児童自身も電子黒板を使った主体的・対話的な深い学びに繋がる授業形態を研究する必要がある。 【 年度】 ・					
今後の取り組み方針（関連・同種事業へのフィードバック等）								
【H30年度】 ・継続的に児童や教員へのアンケートを行い、電子黒板の使用状況や効果の確認を行う。また、毎年度、教員の人事異動による入れ替えで、電子黒板等ICT機器の活用能力に差が生じないよう、スキルアップ研修の充実を図っていく。 ・貸出タブレットを活用した授業や先進的な電子黒板の活用事例、また各学校の効果的な授業の取り組みなどについて情報共有を行い、市内小学校全体の授業における電子黒板の利活用の幅を広げていく。 【R1年度】 ・主体的・対話的で深い学びを実現するために、電子黒板を使った授業形態の研究を行う。また、他のICT機器と電子黒板を連携させ、児童自身がICT機器を使った学びができるよう、児童向けのICT活用の指導を充実させていく。 ・継続的に児童や教員へアンケートを行い、電子黒板の使用状況や効果の確認を行う。また、電子黒板の好活用事例を取り上げ、積極的に全小中学校へ周知を図る。同時に、教員向けのICT機器の研修の充実を図っていく。 【 年度】 ・								